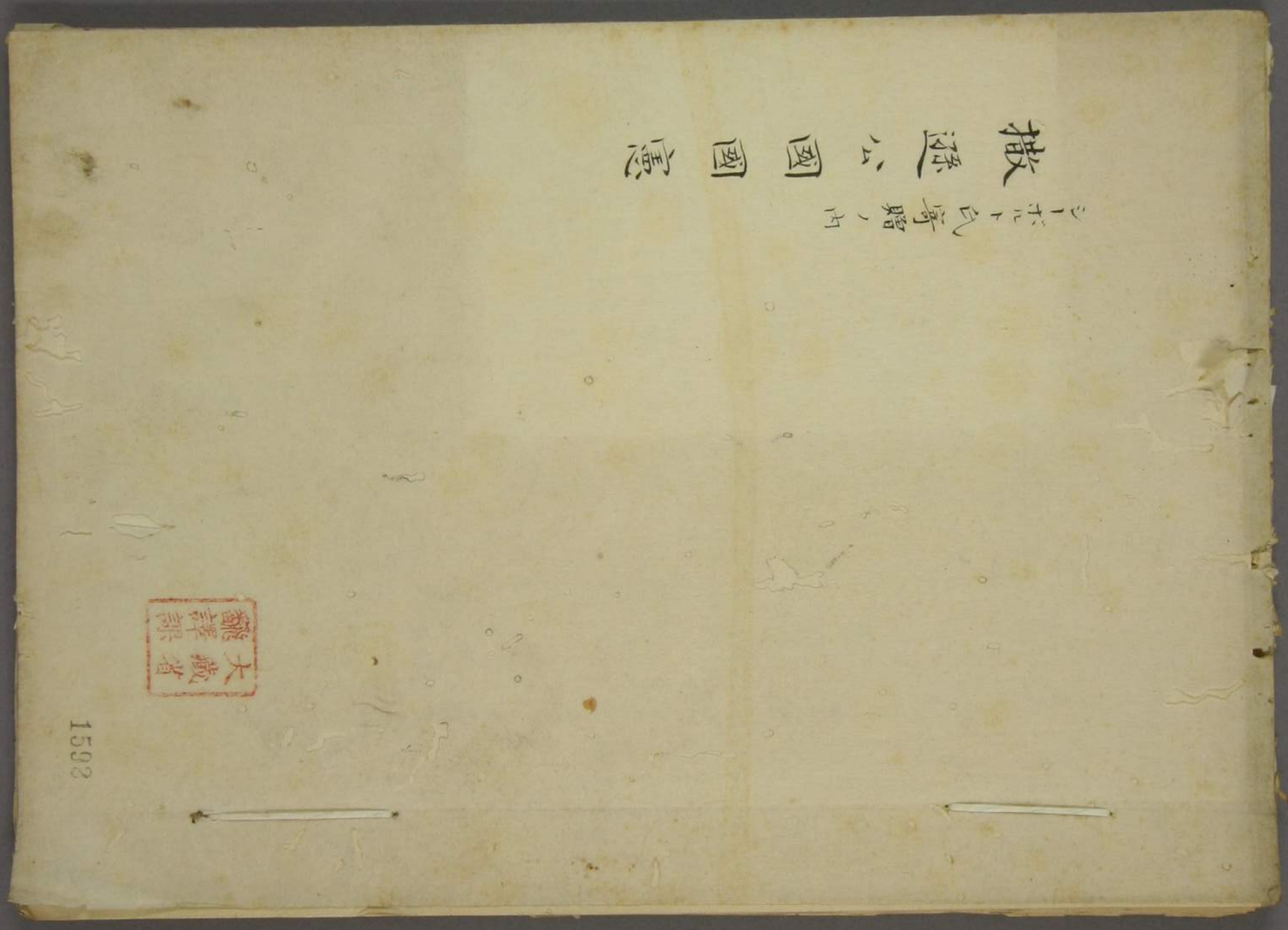

1592

114
A2759

大正十一年四月
大隈侯爵寄贈

撒遜公國改正國憲序

輓近奎運ノ進クスルニ際シ國事上萬般ノ件大率皆ナ変換シ我英聖ナルカル、アウグスト公カ千八百十六年五月五日ニ創建シタル撒遜公國ノ國憲ヲ改正増補セサルヲ得サル勢ヒトナリタリ是ニ於テ予我カ輩之レヲ改正増補ス然リ而シテ此ノ改正ノ舉タル嘗テ我カ國ノ國憲ニ制定明記スル所ノ正規ニ從ツテ我カ國貴重ナル國會ノ討議ニ附シ人民多数ノ裁可ニ拠ル所ナリ此ノ如ク公明正大ノ議決ヲ以テ始メテ一千八百十六年五月五日ニ制定シタル撒遜公國ノ國憲ヲ改正増補シ更ニ左ノ規律ヲ衆庶ニ明告ス

千八百五十年第十月十五日

撒遜公カルフリードリヒ　識

大隈文庫

牧野照譯

撒遜公國改正國憲

第一區

総論

牧野照譯

第一章

夫レ撒遜公國ノ國憲ハ該公國中ノ各部相共同一致シテ普ク之ヲ遵奉セサル可ラサル事

第二章

凡ソ公權利ヲ有スル國民ハ已レノ意思ノ向フ所ニ從ッテ己レノ欲望スル所ノ人ヲ自由ニ撰挙シ以テ國會ノ代議士ト為スヿヲ得ベシ○代議士タルモノハ乃チ全國民ノ代理負クルベシ○代議士撰挙ノ方法ハ憲法ニ於テ之レヲ確定スヘキ事

第三章

議院ニ屬スル諸權柄ハ土ノ如ク憲法ニ從ッテ人民ヨリ自由ニ

撰挙サレタル代議士カ撤遜公國々憲ニ明記スル所ノ正規ニ於テ之レヲ施行スルニ非ザレハ決シテ他ヨリ此ノ諸権柄ヲ施行スルヿ能ハサル可キ事

第二區

議院ノ権限

第四章

議院ノ権限ハ即チ左ノ如シ

第一節　議院ハ國君ヲ奉戴シテ國家需用ノ費額ヲ検出シ其需用ノ額ニ應シテ歳入ノ額ヲ定メ并歳出ノ額ヲモ確定スルノ権アル可キ事

第二節　議院ハ人民ヨリ國家ニ出ス所ノ租税及其他費用ノ事ヲ議シ并此ノ租税及其他費用ノ事ニ就テ政府ヨリ將ニ施行セントスル所ノ諸規則ヲ討議難問スルノ権アルヘシ○且ツ人民ヨリ國家ニ出ス所ノ租税諸費ノ事件及其之レニ関スル諸規則等ハ凡テ議院ノ裁可ヲ得ルニアラサレハ政府ニ於テ之レヲ決行スルヿ能ハサル可シ

政府ハ議院ノ任可ヲ得ルニ非サレハ官金ヲ人民ニ賦付シ又ハ内國債ヲ募ルヿ能ハサル可シ○政府ハ議院ノ任許ヲ得ルニアラサレハ決シテ従來國家ノ所有并私人ノ所有ニ賦課セシ所ノ税法ヲ変換スルヿ能ハサルベシ○議院ニ於テ可決セシ事件ハ決シテ変改スベカラサル事

第三節　議院ハ政府ノ金ノ會計ヲ審査シ若シ會計上ノ事ニ就テ疑ハシキ事有ルトキハ政府ニ向テ其疑件ノ明解ヲ要求スルノ権アル可シ○官府ヨリ定額ノ外更ニ政府ノ費用ヲ人民ニ要スルトキハ議院ハ之レヲ拒ムノ権アル可シ○又タ議院ハ各個人ノ私有ヲ保護スルノ権アル可キ事

第四節　議院ハ立法及施政ノ事ニ就テ弊害アリト認ムルトキハ其弊害ヲ改正除去スルノ法策ヲ考定シ起案ヲ作リテ之レヲ國君ニ出スノ權アル可キ事

第五節　議院ハ參議院ノ不正ヲ訴フルノ權并各ミニステルノ不正ヲ訴フルノ權アル可キ事

第六節　議院ハ凡テ國政ノ基本タルベキ國法創建ノ事ニ関シテ必ス其利害当否ヲ論スルノ權アルヘシ○其他國民ノ人身ノ自由或ハ各個人ノ安寧又タハ人民ノ私有權ニ係リタル規律創定ノ事ニ就テ（全國ニ施行スル所ノ規律ハ勿論各邦各部ニ限リテ施行スル所ノ規律ト雖モ）必ス其利害ヲ討議スルノ權アル可シ

議事院ノ可決ヲ得ルニ非サレハ之レ等ノ諸規律ハ決シテ國内ニ実行スルヿ能ハサル可キ事

但シ國内ノ各會社ノ規律ノ如キモノハ只各會社ト國君トノ協議ニ由テ之レヲ設定スルヿヲ得ヘシ○各邑ノ規律モ亦タ各邑ト國君トノ協議ノ上ヘ之レヲ創定スルヿヲ得ヘシ○是故ニ各會社及各邑ノ規律等ハ敢テ議事院ノ議決ヲ要セサル可シ

第七節　議院ハ政府ヲ其所轄ノ地ヲ裂テ之レヲ外國ニ讓与セントト欲スルトキ若クハ國民ヲ分テ之レヲ外國ニ分与セントスルトキ之レヲ可否得失ヲ議定スルノ權アル可キ事

第八節　議院ハ議會定期ノ外ニ第十四章ニ載スル所ノ正規ニ從ヒテ委員ヨリ各議士ヲ招集シ臨時議會ヲ執行スルノ權アル可キ事

第三區

議事院　委員

代議士ノ權限　書記官

議會ノ開場　議院ノ事務章程

議院延會　議會解散

第五章

凡ソ議會ハ國憲ニ記載スル所ノ定制ニ由リテ人民ヨリ選擇サレタル代議士ノ輯集ヨリ成立ス可キ事

第六章

議會ヲ二種ニ區別シテ一ツヲ尋常議會トシ一ツヲ非常議會トス○尋常議會ハ三年毎ニ代議士ヲ招集シ且ツ租稅年度ノ終期ヲ以テ發會ノ定期トス可シ○非常議會ハ預メ會議ノ期限ヲ確定スルヿ無クシテ或ハ國君ノ指命ニ應シテ議會ヲ開キ或ハ第十六章及第十八章ニ明記スル所ノ憲法ニ從テ開場行議ス可キ事

第七章

議院開設ノ位地ハ國君宜シク之レヲト定スベシ○然レトモ議院開設ノ場所ハ必ス我カ公國管内ノ地ニ限ルヿヲ事

但シ通常ハ我カ公國ノ都府ナルワイマルヲ以テ議院開設ノ場所ト定ムヘシ

第八章

尋常議會共非常議會共ニ議院開場ノ節ハ議員中ノ前會ニ於テ已ニ議長ノ職ヲ奉セシ老練ノ人ヲ以テ議長ニ任ス可シ○若シ全議員三分ノ二以上カ議長ノ改選ヲ企望スルヿアルトキハ則チ其欲スル所ニ任セテ議長ノ改選ヲ許可スヘキ事

第九章

議長ノ選擧ハ必ス之レヲ國君ニ明報ス可シ○一等副議長共二等副議長ノ選擧モ亦タ之レヲ國君ニ開報スヘキ事

第十章

議院ノ事務章程制定ノ為メニ選擇スル所ノ一等副議長及二等副議長選挙ノ事ハ議長総ヘテ之レヲ管理スヘキ事

第十一章

議長副議長(即チ一等副議長及二等副議長)ハ議會ノ委員タル可キ事

第十二章

議會ノ委員カルモノハ尋常議會若シクハ非常議會開場ノ時ニ当テ委員ノ職ヲ管掌スヘキハ勿論議事院閉場ノ時ト雖モ常ニ其職ヲ掌トル所ノ常置員タル可キ事

第十三章

會議ハ総テ公然ニ為ス可シ○議員各自ノ事務章程ヲ詳密ニ制定シテ以テ議事法ヲ綿密ニ為ス可キ事

但シ総議員ノ三分ノ二以上出會セサレハ議事院ニ於テ議會ヲ開クヿ能ハサル可シ○若シ総議員ノ三分ノ二以上出會セサルモノ有リテ之レカ為ニ閉院スルヿ如キ事有ルハ実ニ賤ム可キノ大ナルモノトス

第十四章

委員ノ権限并其職務

第一節　委員ハ議院開場ノ時期ヲ確定シ各代議員ヲ招集スルノ務メヲ掌トリ又タ各議員ニ報ス可キ諸件ヲ廻章ニテ報告シ或ハ議員各自ニ副章ヲ以テ報告スル等ノ務メヲ掌トル可キ事

第二節　委員ハ議院開場ノ節ニ臨ンテ議場ニ不体裁ヲ生セサル様預メ諸事ヲ調査スルノ務メヲ掌トル可キ事

但シ右ノ調査執行ノ為メニ政府ハ議院開場ノ充分以前ニ

其旨ヲ委員ニ報告スルヲ要スヽ可シ

委員ハ會議ニ先ツテ議院閉場ノ事ヲ自カラ參議院ニ報告シ又タ議院閉場ノ際ハ議事ノ諸件ヲ自カラ參議院ニ向報スルノ務メヲ掌トル可シ○參議院ハ議院閉場ノ事并議事ノ諸件等ニ就テ之レト其意見ヲ異ニスル原因ノ在ル有ルニ非サルハ直チニ之レヲ明諾セサル可ラス

參議院ハ國家ニ非常ノ困難ナル大事件ノ起ルヿアル時ハ之レヲ議員ノ委員ニ報告シテ以テ其義務ヲ尽クサシム可シ

第三節　委員ハ尋常議會ニ非常議會ニ於テ議院ノ職務章程ノ制規ニ從テ事務ヲ執行シ并各自ノ議員ヲシテ事務ヲ分掌セシムルノ權アル可キ事

第四節　委員ハ即チ左ニ開載スル所ノ諸條件ヲ管掌ス可キ事

第一　議院閉場ノ時ニ於テ急ニ處決ヲ要スル事變ノ起ルアリテ次ノ新議ヲ待テ之レヲ決スルヲ得サルカ如キ場合アルトキハ乃チ委員ノ意見ヲ以テ自カラ宜シク之レヲ決行スベシ（下ノ第二十三章參觀スベシ）

第二　委員ハ議院閉場ノ際ト雖モ常ニ議院ノ事務ヲ管理シテ以テ諸事憲法ニ背戻スルノ所為無キヲ要シ并國君カ議院ト共ニ決定セシ事項ヲ國家ノ実際上ニ実施セシ哉否ヤヲ照査ス可シ

第三　委員ハ常置員ニシテ議院閉場ノ時ヨリ次ノ新會議ノ時ニ到ル迄テハ決シテ其任ヲ放免スルヲ得サラシム可シ且ツ議院閉場ノ際ト雖モ國君ニ諸事ヲ問報シ并國君ノ施政上ニ注意シテ自己ノ意見ヲ述フルヿヲ得可シ

○是故ニ委員ハ憲法施行ノ事ニ就テモ一般ノ益利ヲ暢達スルノ務メヲ負フモノナリトス

第四　委員ハ非常議會ヲ開テ以テ議院ノ議決ヲ採ラサル可ラサル事故アリト認ムルトキハ則チ其非常議會ヲ開カザル可ラサル所以ノ理由ヲ開陳シ非常議會ヲ開カンヿヲ政府ニ要求スルヲ得ベシ

第五　委員ハ國君ヨリ既ニ撰定シタル議會ノ地方ニ出會スベキ旨ヲ國君ヨリ命セラルヽトキハ命ニ應シテ直チニ其地方ニ出會ス可シ

第十五章

今委員正會ニ先ツテ下今議ヲ開クヿアルトキハ議院開場ノ時ノ如ク議長之レカ上席タル可シ○議長若シ事故アリテ欠席スルヿアルトキハ乃チ一等副議長議會ノ上席タル可シ○一等副議長若シ事故アリテ出會セサルトキハ乃チ二等副議長之レニ代リテ上席タル可シ○正會ニ先ツテ開ク所ノ下會議ニ於テハ議事ハ凡テ多數ニ決スルヲ以テ法リス可シ○若シ其員數相同シキトキハ乃チ議長ノ意見ヲ以テ之レヲ決ス可キ事

第十六章

議事院開場ノ後ニ於テ次ノ新議會ヲ開クノ時期ニ到ラサルニ若シ常置委員中（疾病若シクハ死去等ニ由テ）一人欠員スルヿ有ルトキハ乃チ後會ノ期ニ到ル迄ヲ他ノ兩委員ヨリ其職務ヲ兼掌スベシ

常置委員中二人欠員スルヿ有ルトキハ乃チ止ムヲ得ス只一員ニテ前キノ全委員ノ事務ヲ盡ク兼掌セサルヲ得サル可シ然レトモ此ノ如ク委員二人ヲ缺クヿアルトキハ新タニ委員選挙ノ為メ直チニ代議士ヲ招集シ臨時議會ヲ執行ス可キ事

第十七章

凡ソ議員タルモノハ何レノ地方ヨリ選挙サレ何レノ地方ヨリ來ルトモ決シテ一國人民ノ代理員タルニ外ナラサルモノナルヲ以テ各議士ハ只憲法ヲ以テ正規ト為シ之レニ恭順シ之レヲ遵奉スルノ外決シテ他ニ正規ノ拠ル可キモノナシト確認ス可キ事

此ノ如キ理由ナルヲ以テ今茲ニ左ノ條件ヲ掲載ス可シ

第一　各自ノ議士ハ憲法ニ明記スル所ノ事務ヲ憲法ニ從テ施行スルノ外己レノ選択者タル万民ニ對シテ他ニ尽ス可キノ義務ナカル可シ

第二　議案ノ條目中若シ各議員ノ自由発言権ヲ自カラ限殺スルカ如キ條件アルトキハ是レ即チ憲法ニ悖戻スルモノニシテ甚タ不正不当ノ所為ト云ハサル可ラス

第三　代議士タルモノハ將サニ議場ニ登ラントスルトキハ必ス先ツ公正潔直ヲ希望スルノ責メヲ自カラ任ス可キ旨ヲ誓ハサル可カラス○代議士ハ決シテ思想ノ自由并発言自由ノ妨碍ヲ被ムラサルノ権アル可シ

第十八章

議事院ニ於テ執行スル所ノ議事ニ就テハ各議員決シテ保任ノ責メヲ負ハサルノ権アルベシ○然レトモ議事院ノ最高官タル國君ヲ誤謗シ或ハ政令ニ戻リ或ハ議事法ヲ犯シ又タハ各議員ニ對シテ暴行アルオノ事ハ厳ニ之レヲ禁ス○若シ之レヲ犯スモノ有ルトキハ法律ニ照シテ直チニ之レヲ罰ス可キ事

第十九章

議院閉場ノ時ニ当リテハ議院ノ議士タルモノニ仮令罪アリト認ムルトモ議事院ノ許可ヲ得ルニ非サレハ法院ハ決シテ

之レヲ捕縛シ或ハ之レヲ法庭ニ召シテ審問スルオノヲ為ス能ハサル可シ

議院閉場ノ時共議會延會ノ時ト雖モ議事終テ後ヲハ日ヲ越エルニアラザレバ議士ヲ捕縛シ又タハ之レヲ審問スルオノヲ為ス能ハサル可シ

議事院開場ノ時ト雖モ議士若シ現ニ新罪ヲ犯スヿアルトキハ乃チ法院ハ之レヲ捕縛スルヿヲ得ベシ去レトモ之レヲ捕縛スルノ後チ制規ニ從テ其由ヲ議事院ニ報告セサルヘカラス○此ノ時ニ当テ議院ハ議事閉場ノ後チハ日ヲ越ユルニ到ル迄同人ノ捕縛ヲ解キ且ツ審問ヲ中止センヿヲ法院ニ要求スルヿヲ得ベシ

○加之議院開場ノ時若クハ議院延會ノ時ニ捕縛ヲ受ケタル代議士ヲ直チニ解放スルト否トノ権ハ即チ全ク議院ノ掌握スル所タル可キ事

第二十章

凡ソ代議員カ議會ノ事ニ就テ會議ノ地ニ滞在中ノ日費(即チ議會開場ノ前一日ヨリ議會閉場ノ後一日ニ至ル迄テノ日費)ハ悉皆之レヲ政府ノ金ニテ償却ス可シ

又タ代議員ノ旅費ハ代議員各自ノ郷里ヨリ議會ノ地方迄テノ道路ノ遠近ニ應シテ區別ヲ立テ同シク政府ノ金ヲ以テ之レヲ償却セサルヘカラサル事

第二十一章

議會ノ事務ハ凡テ完全ナルヲ要スルヲ以テ議會ニ於テ專ハラ議案ヲ認メ或ハ議事ノ記録等ヲ掌トルノ官即チ書記官ヲ置カサルヘカラズ而シテ此ノ書記官設置ノ事ハ委員之レヲ管掌シ各議士ニ命シテ之レヲ撰擇セシム可シ

書記官撰挙ノ事ハ委員ヨリ之レヲ國君ニ向報ス可キ事

第二十二章

昏記官ハ國君ノ直チニ授任スヘキ官ニ非サル可シ○昏記官ハ常ニ必スワイマル（按スルニ撤遷公国ノ都府也）ニ在留セサルベカラス○昏記官ハ議事院閉場ノ時ハ常ニワイマルノ區裁判所ノ書記ヲ務ム可シ○議事院ニ於テハ一ト度ヒ書記官ヲ撰挙スルノ後チト雖モ亦タ之レヲ放免スルノ権アル可キ事

第二十三章

將サニ新會議ヲ開カントスル二個月以前ニ於テ書記官死去シ若クハ辞職スル等ノ事アルトキハ委員ハ假リニ他ノ書記官ヲ命ス可シ

新員ハ次ノ新議會ニ於テ假リニ命シタル所ノ書記官ノ可否ヲ衆議員ニ謀リ衆議員若シ之レヲ不可ナリトセハ更ニ各議士ニ命シテ改撰セシム可キ事

第二十四章

書記官ノ年給ハ全ク之レヲ官府ヨリ給スヘキ事

第二十五章

書記官ハ代議人ト齊シク議會ノ時ニ在リテハ自個ノ罪科ニ就テ直チニ法院ノ刑罰ヲ被ムラサルノ権利アル可キ事

（上ノ第十九章ヲ參觀スベシ）

第二十六章

代議士ヲ招集シ將ニ議會ヲ開カントスルノ時國君ハ宜シク此ノ旨ヲ委員ニ命スベシ○委員ハ國君ノ意ヲ奉戴シ書ヲ作テ普ク此旨ヲ布示シ以テ代議士ヲ招集ス可キ事

但シ代議士ハ此ノ如キ招昏ノ意ニ應シ期ニ到テ必ス出會ス可キ旨ヲ直チニ議長ニ回報スベシ

第二十七章

尋常議會若クハ非常議會ヲ開カントスルニ当テ議長ヨリ議員ヲ招集スルノ時総議員中ノ三分ノ二以上之レニ答フルニ出會スル可キ旨ヲ以テスルトキハ即チ委員先ツ其由ヲ參議院ニ開執シ期ニ及ンテ或ハ國君自カラ親臨シ又タハ國君ノ代理人臨會シテ以テ議會開場ノ式ヲ執行フ可キ事

第二十八章

凡ソ議事院ナルモノハ代議士ノ會集輳合シタル議會ヨリ成立ス可キ事

第二十九章

國君ハ議事ノ問題ヲ記制シテ或ハ一時ニ之レヲ議事院ニ下附シ又タハ之レヲ漸次ニ下附ス可シ

國君ハ己レノ代理員ヲ命シ代理員ヲシテ常ニ議事院ニ臨會セシム可シ○國君ノ代理員ハ各議士ト共ニ事ノ公否ヲ議シ自ラ議決ス

議決ヲ與シ、君主ヨリ出ス所ノ問題ノ疑件ヲ説明シ問題ノ意ノ拠テ起ル所ヲ充分ニ開陳スルホノ事ヲ掌トル可キ事

但シ國君ノ代理ハ通常參議院長之レヲ勤ム可シ若シ參議院長事故アリテ國君ノ代理ヲ勤ムル能ハサルトアルトキハ即チ他ノ政務官ニ命シテ代理タラシムルモ決シテ妨ケナシトス

第三十章

凡ソ代議士タルモノ議事院ニ於テ議場ニ立テ方ニ事ヲ論スルトキハ己レノ神思ノ向フ所ニ從テ自由ニ発論スルヲ得ヘキ事

第三十一章

議院中ニ別部局ヲ設ノ可シ而シテ此ノ別部局ニ於テハ議會ニ関スル諸事務ヲ執行ス可シ○議長ハ議院開場ノ時ト或ハ若シ事故アルトキハ國君ノ許可ヲ得テ別部局ノ各員ヲ招集シ別部局ノ會ヲ開クヿヲ得ベシ

凡テ別部局ノ各負ハ第十九章及第二十章ノ制規ニ準レテ之レヲ取扱フ可キ事

第三十二章

議會ニ於テ議決セレ所ノ條件ハ一二事件若クハ數事件ヲ集メ議院ノ上席タル人ノ姓名ヲ記載シテ之レヲ國君ニ出ス可シ國君ハ之レヲ判決シ其旨ヲ記載シテ之レヲ議院ニ下戻ス可キ事

第三十三章

議事院ニ於テ凡テ事務ノ順序ヲ齊整セシカ爲メニ事務章程ヲ制定ス可キ事

第三十四章

國君ハ或ハ議會ノ延期ヲ命シ或ハ一時議院ニ閉場ヲ命スルオノ權アルハ勿論全ク議事院ノ代議員ヲ放免シテ之レニ解散ヲ命スルノ權アル可キ事

但シ議院ノ決議ヲ以テ議會ノ延期ヲ定ムルニアラサルヨリハ君主ト雖モ決シテ議會ニ三十日間以上ノ延期ヲ命スルヿ能ハサル可シ

國君ヨリ代議士ヲ放免シテ議會ニ解散ヲ命スルトキハ即チ代議士ハ人民ノ名代人タルノ權利ヲ尽ク失スルモノトス○然ルニ國君ハ代議士ヲ放免シ議會ニ解散ヲ命スルノ後チ三ケ月以内ニ於テ必ス代議士ノ改選ヲ執行セサルヘカラス○此ノ改選ノ時ニ於テ旧代議士ハ再ヒ人民ヨリ選擇セラルヽノ權利ヲ有ス可シ

國君若シ議會ニ解散ヲ命スルノ後チ三ケ月ヲ越ユルト雖モ尚ホ代議士ノ改選ヲ執行セサルトキハ則チ旧代議士ハ再ヒ人民ノ名代人タルノ權利ヲ得テ更ラニ議會ヲ開場スルヲ得ベ

キ事

第四區

議事院ニ屬シタル諸權柄ノ目

第三十五章

向三年間會計年度ニ到ル迄ノ稅法確定ノ事ニ就テモ亦タ國君ト議院ト相一致スルトハ自由ニ其租稅ノ額ヲ增減シ或ハ其徵收ノ法方ヲ變改スルヿヲ得可キ事

但シ租稅改革ノ事ハ議事院ニ於テ先ツ之レヲ議定シテ然ル後チ之レヲ國君ニ出シ國君之レヲ裁可ス可シ

第三十六章

議事院ニ於テ議決シ國君之レヲ裁可シテ然ル後チニ相確定シタル所ノ財政ノ法ハ次ノ會計年度ノ期ニ到ル迄テハ如何ナル事アリト雖モ決シテ之レヲ動ス可ラサルモノトシテ仮令國君ノ命令ト雖モ此ノ財政ノ法ニ戻ルモノ有ルトキハ実行スルヲ得サル可キ事

第三十七章

會計年度ノ期ニ到リテ新タニ稅法改革ノ議起リ國君ト議事院トノ間互ニ異議ヲ生シテ容易ニ一致セサルヿアルトキハ止ムヲ得ス此ノ期ヨリ後チ半ケ年間ハ從前ノ法ニ從ツテ執行シ其議ノ一致スルヲ待テ新法ニ改ム可キ事

第三十八章

第三十七章ニ掲載スル所ノ事故アリテ稅法ノ改革ヲ躊躇スルヿアルトキハ國君ト議院トノ論議租稅年度ノ期ノ後チニ到リテ一致スルヿ有リト雖モ租稅年度ノ期ヨリ凡ス六ケ月ヲ越ユルニアラザレハ決シテ新法ヲ実行スルヿ能ハサル可シ

兩議一定シ且ツ租稅年度ノ期ヨリ六ケ月ヲ越ユルトキハ即チ或

ハ國家ノ所有地ヲ廢シ或ハ間稅ヲ廢シ又タハ諸稅ノ法ヲ自在ニ變更スルヿヲ得ヘキ事

第三十九章

ドメーヲン（世ニ君家ニ屬スル土地ナリ）ヲ他人ニ賣却スルホノ事ハ甚タ輕易ノ事ニアラザルカ故ニ必ス之レヲ議會ノ決議ニ任セサル可ラサル事

第四十章

國家ノ所有地（即チ官有ノ土地ナリ）ノ一小部分ヲ他人ニ賣却スル等ノ事ハ敢テ議事院ノ決議ヲ要セザル可キ事

第四十一章

國家ノ所有地ヲ賣却シテ得タル所ノ金ハ即チ之レヲ國家ノ專有トシテ官府ニ蓄積スルヿ当然タル可キ事

第四十二章

國家ノ蓄積金并前年ノ改費ニ供シタル殘金等ノ如キ國家ノ余有金ハ其全額ノ三分ノ二ハ改府ヨリ或ハ之レヲ人民ニ貸付スルカ凡テ自由ニ之レヲ處分スルヿヲ得ベシ敢テ議院ノ許可ヲ要セサル可キ事

第四十三章

議會終ワテ未タ次ノ新議會ヲ開クノ期ニ到ラサルノ際國家ニ非常ノ大事件起リテ當テ確定シタル會計預算ノ諸費ノ外ニ改府ニ於テ夥多ノ金ヲ要シ人民ヨリ必ス之レヲ出サヾルヘカラサルカ如キ事變ノ生スルヿ有ルトキハ即チ非常議會ヲ開ヒテ之レヲ議定セサルベカラサル事

第四十四章

改府ハ毎年參議院中ノ專ニ財務ニ関スル官吏ヲ使ハシ議院ノ專ラ財務ヲ掌トル所ノ人ト立合ノ上ヘニテ租稅ノ事ニ関シタ

ル大蔵ノ會計ヲ綿密ニ審査セシムルヿヲ得ベシ○議院ニ在リテ專ラ財務ノ事ヲ管掌スル所ノ人ハ議會ノ節投票ヲ以テ議員中ヨリ之レヲ撰挙ス可シ○議院ニ在リテ專ハラ財務ノ事ヲ管掌スル所ノ人ハ租税年度ノ時ニハ必ス之レヲ改選セサルヘカラス

專ラ議院ノ財務ヲ管掌スル所ノ人ハ參議院中ノ專ラ財政ニ関スル官吏ト共ニ國君ノ命令ヲ受ケテ租税事務ニ関スル大蔵ノ諸部局ヲ毎年洞觀シテ之レヲ綿密ニ審査スルノ権利アル可キ事

第四十五章

立法ノ事关施政上ノ事ニ就テ國君ニ甚タ不正不当ノ所為アリト確認スルトキハ委員ハ其已レニ有ル所ノ権利ヲ以テ第十四章ニ制載スル所ノ正規ニ従テ議會ヲ起シ疑問ノ諸件ヲ議會ニ出シテ公然之レヲ議決ス可キ事

但シ代議員タルモノハ此ノ如キ性質ノ議事ヲ論スルノ時ト雖モ直チニ國君ノ非ヲ指目シテ論議ヲ発スルヿ能ハサル可シ

第四十六章

代議士ノ外ニ國民中議會ノ時ニ来會スルモノ有リテ自ラカラ國家ノ為メニ大ニ益利ナルモノ若クハ議院ノ為メニ甚タ便宜ナルモノ有ト思考スルトキハ已レノ説ヲ詳細綿密ニ記載シ之レヲ議會ニ出シテ以テ其意見ヲ委員关代議士ニ通スルヿアリト雖モ決シテ妨ケナカル可シ

然レトモ議會ニ於テ各代議士ト齊シク直チニ自己ノ意見ヲ論辯スルヲ得サル可キ事

第四十七章

凡ソ君主ヨリ國家ニ出ス所ノ布令ハ諸省ノ長官一員若クハ數員其布令書ノ終リニ自己ノ姓名ヲ記載シテ之レヲ保証スルニアラザレハ決シテ真ノ改令タルノ勢力ヲ得ルヿ能ハサル可キ事

君主ヨリ將サニ出サントスル所ノ布令中ノ條件ニ於テ只タ一省ノ事ノミニ就テ疑フ可キ事件アルトキハ該省ノ長官若クハ其代理人之レニ抗論シテ其不可ナル所以ヲ述フルヿヲ得可シ○又タ君主ヨリ將サニ出サントスル所ノ布令中ノ條件ニ於テ數省ノ事ニ関スル疑件アルトキハ乃チ數省ノ長官若クハ數省ノ長官ノ代理人其疑件ヲ論シテ其不可ナル理由ヲ陳述スルヿヲ得ヘキ事

第四十八章

參議院即チミニステル合議院ニ在ル所ノ諸省ノ長官ハ若シ改令施行ノ事ニ就テ諸改ノ行止其宜シキヲ失シ又タハ國家ノ弊害ヲ釀成シ若クハ憲法ニ背キテ改ヲ企画スル等ノ事アルトキハ即チ之レオノ失策ニ就テ必ス保任ノ責メヲ受ケサルヲ得サル可シ加之其憲法ヲ侵シタル罪科ノ跡顕然タルトキハ即チ刑法ヲ以テ之レヲ罰ス可キ事

第四十九章

諸省ノ長官改務施行ノ際若シ官金ヲ掠メ、人ノ賄賂ヲ受ケ、記事ニ司法ノ権ヲ害シ、改令ノ施行ヲ躊躇シ、憲法ノ正規ニ戻リ、憲法上ニ於テ許サレタル人民ノ自由権ヲ妨碍シ、人民ノ私有権ヲ毀損シ、法律ノ禁スル所ニ背キテ改務ヲ執行スル等ノヿアルトキハ即チ議院ヨリ諸省長官ニ向テ之レヲ告訴スルノ権アルベシ

然レトモ諸省長官ノ改務施行ノ事ニ就テ確然其非ヲ指目シテ告

訴ス可キ事件アルニアラサレハ議院ト茫然暗然之レヲ訴フル
ヿ能ハサル可キ事
但シ議院ハ諸省長官ノ連累者ニ向テ告訴スルノ権アル可
シ

第五十章

凡ソ議院ヨリ訟ヘントスル所ノ事件ハ先ツ議會ニ於テ之レヲ
議決シ然ル後チ告訴状ヲ以テ委員ヨリ直チニ君主ニ出訴ス可
シ
委員ヨリ告訴状ヲ以テ訟フル事アルトキハ君主ハ非常裁判ノ定
法ニ從テ被告人ヲシテ之レカ答辨ヲ為サシム可シ○被告ノ答辨
甚タ曖昧ニシテ原告ガ訴フル所ノ疑點ヲ辨明スルヿ能ハサル
トキ若シハ被告全ク不正ニ帰スルトキハ直チニ被告ニ向テ其
非ヲ責メ其過チヲ咎メ、其罪ヲ正ス可シ

被告ノ所為若シ刑法ニ觸ルヽモノ有ルトキハ則チ之レヲ第五十
一章ニ記載スル所ノ國事法院ヘ送致シテ審判
ヲ遂ケ刑ニ處ス可キ事
但シ議院ヨリ君主ニ訟フル所ノ告訴ノ事件ハ凡テ之レヲ公
然ニ執行ス可シ

第五十一章

君主ノ命令ヲ以テ各省ノ長官ノ罪ヲ正スヿ有ルトキ若シクハ議
院ヨリ諸省ノ長官ニ向テ告訴スルヿアルトキハ即チ國事法院ニ
於テ之レヲ処決ス可キ事
但シ國事法院ハ五人ノ名ヲ撰ノ上等裁判所ノ長官
トナリテ其他十二人ノ法官ヨリ成立スル者ナリ

第五十二章

國事法院ノ裁判官ナル十二人ノ法官ハ其内六人ヲ君主ヨリ命

シ他ノ六人ハ議院ヨリ内國裁判所ノ法官ヲ選挙シテ之レヲ出ス可シ

君主ヨリ命スル所ノ六人ノ法官中ニ共ニ必スエナ（前章ニ出ツ）ノ上等裁判所ノ裁判官二人ヲ加計セザルベカラズ

議院ノ代議士以テ國事法院ノ裁判官ト為スヘカラス○國事法院ノ裁判官ハ其任期中ハ配（妄）リニ之レヲ放免ス可ラサル事

但シ尋常議會ノ時君主及議院ト共ニ必ス國事法院ノ裁判官ヲ改選スヘシ

第五十三章

國事法院ニ於テハエナ（エニ出ツ）ノ上等裁判所ノ處（所）長之レヲ上席タル可シ○處（所）長若シ事故アリテ出席セザル可ラサル時ハ乃チエナ（エニ出ツ）ノ上等裁判所ヨリ選挙サレタル裁判官ノ中ニテ年長ナルモノ之レヲ上席タル可キ事

第五十四章

國事法院ノ書記官及其他諸務ノ官吏ハ該法院ノ處（所）長之レヲ命ス可キ事

第五十五章

國事法院ノ裁判官中ニ互ヒニ争抗軋轢ヲ生シテ之レカ為メニ官ヲ辞シテ去ルモノ有ル時若シクハ他ノ事故有リテ法官欠員スル事有ル時ハ國事法院ハ直チニ國内ノ裁判所ノ法官ヲ選択シテ之レヲ填補スルヿヲ得可キ事

第五十六章

國事法院ハ國事上ノ告訴ノ事件ニ就テ充分ニ審問ヲ遂ケ且ツ之レカ裁決ヲ為スノ権アル可キ事

第五十七章

議員ヨリ諸省ノ長官ヲ告訴スルトキ國事法院ニ於テ之レヲ審査スルノ手續キ及ヒ此ノ告訴ノ事ニ就テ施行スル所ノ治罪法ノ如キハ即チ尋常法院ノ自ツカラ相異ナリタル所ノ法ヲ設ク可キ事

第五十八章

國事法院ハ凡テ訴訟ノ事件ニ就テハ必ス現存ノ法律ノ正規ニ從テ之レヲ裁判ヲ為ヲシムルヘカラサル可シ　○現存ノ法律ノ精神ニ拠テ考フルニ犯罪人ノ罪狀若シ官職放免ノ罪科等ニ当ルモノ有ルトキハ即チ國事法院ヨリ官職放免ノ事ヲ決行スルノ権アル可シ

租税ノ事件ニ就テ議事院ヨリ改務官吏ヲ告訴スルヿ有ルトキハ即チ國事法院ニ於テ之レヲ處分スル可シ

諸省ノ長官タルモノハ若シ國事法院ヨリ刑ヲ被ムル可キ處断ヲ受クルヿ有ルトキハ仮令其罪科ハ官職放免ノ刑ニ非スト雖モ自カラ諸省長官ノ職ヲ解カサル可ラサレ事

第五十九章

國君ハ國事法院ニ於テ將サニ裁判ヲ施行セントスル所ノ事件ニ就テ自己ノ意見ヲ以テ裁判ヲ止ムルノ権利ヲ有ス可キ事

但シ國君ト雖モ國事法院ニ於テ已ニ處断セシ所ノ事件ハ之レヲ議院ニ謀リテ議院ノ可決ヲ得然ル後チ憲法ノ正規ニ從ツテ之レヲ免罪スルニ非ラザレハ決テ自己ノ意見ヲ以テ訓令ス

第六十章

將サニ新憲法ヲ創建セントス企謀スルヿ有ルトキハ先ツ君主ヨリ新國憲ヲ設定セシヿヲ議院ニ請求シ又タハ議院ヨリ先ツ建案ヲ制シテ之レヲ君主ニ出スヿ有ル可シ

議院ヨリ新國憲設定ノ起案ヲ制シ之ヲ君主ニ出シテ以テ此ノ新法ヲ実施センヿヲ企謀スト雖モ君主若シ之レヲ退クルヿ有ル片分チ議院ハ再ヒ之レヲ君主ニ請求スルノ権ナカル可キ事

第六十一章

議院閉場ノ時ニ当リテ國家ノ安寧ヲ保護センヿヲ為メニ必ス急ニ新國憲ヲ創定セサルヘカラサルヿ如キ勢ヒトナリタルトキハ仮令其新國憲ノ性質ハ議院ノ決議ヲ要セサル可ラサルヿ如キ種類ノモノナリト雖ヒ(即チ工ノ第四章ノ第六節ニ掲載スル所ノ憲法ノ如キモノト雖ヒ)君主ノ全権ヲ以テ之レヲ創建スルヿヲ得可シ

然レヒ此ノ如キ種類ノ國憲ヲ猶ノ君主ノ全権ヲ以テ創定スハ法ハ事ナレハ決シテ常法トス可キモノニアラサルナリ

此ノ如ク時変ニ應シテ君主ヨリ臨時ニ創定セシ所ノ新國憲当否如何ニ就テ諸省ノ長官ハ保任ノ責ニ負フモノナリ

是故ニ諸省ノ長官ハ此ノ新國憲ノ終リニ此ノ法ノ正否ニ就テ自ラ保任ス可キ旨ヲ記載シ且ツ己レノ姓名ヲモ記載ス可シ

○已ニ実施セル所ノ憲法ノ当否如何ハ次ノ新議會ニ於テ之レヲ議定ス可シ

此ノ如ク國君ノ全権ヲ以テ臨時ニ創定シタル國憲ハ政府ヨリ之レヲ内國ニ布告スルノ時其之レヲ臨時ニ創定シタル旨ヲ明ラカニ報告セザル可ラス

公告書ニハ「此ノ新國憲ハ臨時ニ創定シタル法ニシテ即チ假法ナルヲ以テ之レヲ次ノ新議會ノ議決ニ附シ若シ可決ヲ得サルヿアルトキハ直チニ之レヲ廃棄スベキ旨」ノ詞ヲ必ス記載セザル可

ラサル事

第六十二章

議事院ハ前章ノ如ク新國憲ノ公告ニ君主ノ誓詞ヲ記載スル
ト否トニ係ラス次ノ新議會ニ於テ必ス新國憲ノ当否ヲ議定ス
ルノ権アル可キ事

第六十三章

次ノ新議會開場ノ時ニ於テ國家ノ安寧ヲ保護センカ為メニ君
主カ臨時ニ創定セレ處ノ假法ノ事ニ就テ君主ノ代理人ト議事
院ノ代議士トノ論議一定スル時ハ即チ議院ノ決議ニ由テ直チ
ニ之レヲ真國憲ト為ス可キ事

第五區

國憲ノ確然不拔ナル事

第六十四章

抑モ貴重ナル我カ撤遜公國國憲ノ諸條件ハ至大至重ナルモノ
ニシテ此ノ憲法中ニ明記スル所ノ方法ニ從ツテ之レヲ改正シ
或ハ除去シ又タハ增補スルノ外ハ決シテ一ケ條タリトモ他ノ
方術ヲ以テ之レヲ動カスヿ能ハサル可シ
此ノ如ク至大至尊ナル我カ公國ノ國憲ヲ改革センニハ議事院
ニ於テ必ス八日以上之レヲ討議難問シテ然ル後チニアラサレ
ハ之レカ裁決ヲ採ルヿ能ハサル可シ
國憲改革ノ議ハ議院ノ代議士總員ノ四分ノ三以上カ出會スル
ニアラザレバ之レヲ議定スルヲ得サル可シ縱令ヒ總員四分ノ三
以上ノ代議士カ出會スト雖モ其内三分ノ二以上カ國憲改革ノ
議ニ左袒スルニアラザレバ決シテ國憲ノ改革ヲ施行スルヿ能
ハサル可キ事

第六十五章

議事院ニ於テ國憲改革ノ諸條件ヲ議定セシ後チハ改務官吏ハ現存ノ憲法ニ從ツテ此ノ新國憲ヲ実際上ニ施行スルノ義務ヲ尽サヽル可ラサル事

第六十六章

改務官吏カ施改上ノ事ニ就テ自カラ其情法ノ處為ナルヿヲ知テ憲法ヲ犯スヿアルトキハ乃チ之レヲ官吏職務上ノ犯罪トシテ其罪狀ノ軽重ニ應シテ刑法ヲ以テ之レヲ罰ス可シ

改務官吏カ施改上ニ於テ密カニ現存ノ憲法ヲ廃棄セントト企謀スルノ處為アルトキハ即チ之レヲ叛逆罪トシテ罰ス可キ事

第六十七章

國君位ヲ辞シテ嗣君將サニ宝祚ヲ踐ントスルノ時嗣君ハ自カラ春秋ヲ以テ「吾レ今國憲ニ從ツテ先君ノ位ヲ継ク故ニ吾カ在位中ハ心ス國憲諸條件ヲ維持シテ以テ之レヲ保護ス可キ」旨ヲ告ケサル可ラサル事

嗣君未タ幼少ニシテ自カラ改ヲ聽クヿ能ハサルトキ若シクハ他ノ事故アリテ嗣君直チニ重祚ヲ踐ムヿ能ハサルトキ國君ニ代リテ改權ヲ有スルモノアレハ其改權ヲ有スル所ノ人ハ已レガ改權ヲ施行スルノ際必ス國憲ヲ維持シテ以テ之レヲ保護ス可キ旨ヲ自カラ証明セサルヘカラザル事

附説

第七十章

此ノ改正國憲ニ於テ新タニ確定セシ議院ノ職務章程ハ即チ議長撰挙ノ事務及ヒ第四章ニ記載スル所ノ委員ノ職務等是レナリ然リ而シテ之レ等ノ諸件ハ凡テ千八百四十八年十一月十八日ノ議會ニ於テ議定セシ所ナリ

余今此ノ改正國憲ヲ真ニ完全無缺ノモノト為スヿヲ得タリト確信ス依テ我々公國ノ國章ヲ左ニ示ス

紀元千八百五十年第十月十有五日ワイマルニ於テ録ス

撒遜公カル、フリードリヒ 印

撒遜公國改正國憲終リ